

おもてなし その心遣いは



三宅真弓議員

人と人とのつながりの温かさは、生きていくことの喜びにつながる。今、四国遍路の歴史やお接待の文化に関心が向けられており、この思いやりや心遣いに触れることが、旅の目的としての重要な要素となっている。市内外から多くの人が訪れる新庁舎でも、当然おもてなしの心遣いがあるべきだが、現状はどうなのか。



奏でられる♪*♪*も心地よいものです

A

産業文化部長 本市観光

戦略プランでは、観光客と地元との「参加と共感」による観光振興を主要なテーマに掲げ、具体的目標を設定し、取り組みを進めている。その中で、地元ならではの経験やノウハウを生かした新たな体験型観光メ

ニューの開発に努めている。

新庁舎の1階フロアについても、関係課と協議、調整を進め、全庁的な連携を図る中で多様な情報発信に努めるなど、来庁者をおもてなしできる雰囲気づくりを醸成していきたい。

中心市街地 活性化に向けて



川田匡文議員

新市民会館の建設予定地である大手町4街区には、駐車場用地としての広い土地がない。福島駐車場やみなと公園など、駅の北側に新市民会館の基幹駐車場を整備すれば、商店街に恒常的な人流が生まれるのではないかと。市全体の長期的な展望に立ち、中心市街地の活性化に向けたビジョンは。



駅北エリアの整備は

A

市長 大手町4街区から

少し離れた場所にある駐車場の活用を促し、まちを歩くことは、駐車場不足への対応だけでなく、まちなかの活性化策としても大変有益である。市では、これまで市街地開発や商業振興、まちなか定住など

多様な切り口から、活性化の糸口を探ってきた。駐車場の問題

としては、市民会館オープン後の運営面での努力が不可欠だが、新市民会館の整備を含めた4街区再編の効果が十分に発揮されるよう、市全体で中心市街地の活性化に取り組んでいきたい。

認知症支援 住み慣れた地域で



渡邊一馬議員

認知症の人やその家族が、地域や専門家と情報を共有し、理解し合える場が重要である。認知症カフェなど集える場所は充足しているのか。また、認知症の早期発見や早期対応を目指して活動する認知症初期集中支援チームの体制や地域対応の現状はどうか。



地域の力で安心を

A 健康福祉部長 市では、サポート医師を講師とした家族介護支援講座のほか、市内15か所で認知症カフェを開催している。

認知症初期集中支援チームは、現状、サポート医師7名、地域支援推進委員5名で活動している。昨年度の対応件数は44

件で、家族からの相談等を受けた専門職が訪問し、状況を確認している。支援の方向性を検討し、必要な医療・介護の導入、調整等包括的、集中的に支援を行っている。

住み慣れた地域で、支援を受けながら暮らすことができる体制を整えている。

地域公共交通と 移動支援



内田俊英議員

SDGsの理念から、地域公共交通や移動支援の現状は十分なのか。今年度、7地域コミュニティが高齢者のお出かけ支援を行っているが、外出に不便さを感じている地域が利便性の向上に取り組んでいる印象がある。市民の願いに沿う必要性や運営形態が望まれるが、どうか。



願いが届くように

A 都市整備部長 昨年度、コミュニティバスは、陸地部5路線で約19万3千人、本島約2400人、広島約4700人が利用され、市の財政的負担は約1億210万円であった。

お出かけ便は、週2〜3日、1日平均3〜7件の利用があり、車両の購入経費180万

円と維持管理経費35万円を上限に補助している。SDGsのねらいには届いていないが、現時点での最善を尽くしたものと認識している。

今後は、様々な交通手段の連携により、利便性が高く、持続可能な地域公共交通網の構築を目指したい。

定住自立圏域 その拡充は



大前誠治議員

香川県は、広域水道企業団や汚水処理事業効率化協議会を設立し、県内の各事業に共通する課題解決を図っている。本市も、体制の整備や強化を目指し、さらなる広域化を検討しなければならない。今後のまちづくりにおいて、坂出市や宇多津町を含めた定住自立圏域を拡充する考えは。



力を合わせて地域を元気に

A

市長 これまでも、坂出市や宇多津町とは、瀬戸内国際芸術祭中の移動支援や、綾川町も含めた中讃医療圏での2次救急の業務など、2市3町の枠組みにとらわれることなく、課題に応じた枠組みで取り組みを進めてきた。複雑・多様

化する行政課題が山積する中、広域連携による課題解決は避けられないものと考えている。

今後、中讃2市3町での施策の充実を基本とし、一方で既存の広域行政の枠組みにとらわれない、さらなる連携に取り組んでいきたい。



定期予防接種 再接種に助成を



東 由美 議員

抗がん剤の投与や骨髄移植などで、発症前に接種した定期予防接種の効果が低下し、消失する場合があります。その際の再接種費用は、原則全額自己負担である。県内でも複数の市町が助成しているが、本市でも再接種費用を助成できないか。



ワクチンで健やかに

A

健康福祉部長 ワクチンの接種年齢や接種回数は、予防接種法で定められている。免疫がつかない場合や、医療行為で免疫を失った場合の再接種への対応は定めがないが、小児がんでの抗がん剤の投与や骨髄移植の治療など、個人

の発病や重症化の予防、再接種に係る経済的な負担軽減の観点を踏まえると、再接種の費用助成の検討が必要である。

今後、助成対象や内容、近隣市町の状況等を調査研究し、小児科医の意見も聞き、検討したい。



島しょ部の イノシシ対策は

Q



守家英明議員



崩れたのり面 イノシシの仕業?!

広島町では、すべての地区でイノシシによる被害が発生している。広島以外の島しょ部でも同じ状況であると聞く。幸い人的被害は報告されていないが、島民の日常生活の安心・安全を確保しないといけない。イノシシ被害への対策は。



A

産業文化部長 本市では、イノシシの目撃情報

等をもとに、わなによる捕獲を行っている。島しょ部では、海を渡つての作業となるため、わなのかげ直しや移設に早急な対応が難しい状況である。

今後、捕獲従事者を増員し、

わなの設置数を増やすとともに、コミュニティ紙を通じてイノシシに遭遇した際の対処方法

などを提供していく。また、侵入防止柵の設置補助制度の積極的な活用を呼びかけ、広い範囲の柵囲みなど、集落への侵入防止対策を強化していきたい。

選挙事務の誤り 続いたのはなぜか

Q



横川重行議員



私たちの一票が...

10月の衆議院議員総選挙において、本市では3件のミスがあった。投票事務の確認や打ち合わせなど、準備は十分だったのか。また、その後の指導はどうか。経緯や再発防止への対応を市民に説明し、謝罪すべきではないか。



A

選挙管理委員会委員長 衆議院議員総選挙では、

3件もの事務誤りの結果、投票者のご意思を生かせず、また民主主義の根幹である選挙への信頼を著しく失墜させた。深くおわび申し上げます。

基本的事項や機器の操作等、

説明会や予行演習を事前に行っているが、従事者の確認や理解

が不十分で、漫然と作業を行ったことが最大の原因である。反省し、今後はさらに詳細でわかりやすいマニュアルを作成したい。緊張感を持って選挙事務を遂行できるように指導していく。